



はばたきだより

第5号

2020.3

理事長挨拶

**「愛育学園はばたきの存在価値
子どもたちの最善の利益のために
〜五年目を迎える〜」**

二〇一五年四月二日に開設して五年目が終わろうとしています。児童福祉法の中心理念である児童に最善の利益を提供することを目標に種々の取り組みをしています。通常の組織は五年経てば何とか基礎を築き上げるのでしょうか。『はばたき』はどうぞ繰り返すことは今後も当然ですが、自己評価は常に厳しくあらねばなりません。どんなに努力してもこれよい、目標に到達したということはないと思います。

子どもたちへの個別の支援においては、達成感よりは、挫折の連続であろうと推察します。先が見通せない苦しみは覚悟して努力を続けなくてはなりません。そのような状況下において、職員の皆さんの努力は認められます。よくやってくれております。残念でないのは、毎年数名の職員が辞めていくことです。それぞれに事情が

ありやむを得ないことなのでしょうが、『賽の河原』にならないようにするにはどうすればよいのでしょうか。職場環境や労働条件の改善は経営側（法人）の最大の課題であると認識しています。やるべきこと、やれることは何でもやります。職員の皆さんには子どもたちの最善の利益のために研修機会をでき得る限り多く与えていく所存です。すべての職員に期待します、各人でのためめ研鑽を続けて下さい。

現在、とても悲しいことに、心が傷つき、自信を失い、他人が信じられず、自分の存在価値を見失っている子どもは増えています。このような子どもたちのために『はばたき』は存在し続けていきます。

毎年、二十数名の子どもたちが、職員や併設するはばたき分校の先生方からの生活支援、教育支援を受けながら、心理療法、薬物療法を受けています。私たちは、子どもたちとの日々の触れ合いの中で、子どもたち一人ひとりに自らが掛け替えのない存在であると実感し、自信を持って行動し、将来に夢を抱いて大きく羽ばたいてもらいたいと願っています。

最も重要なことは、子どもたちが、安全で安心できる環境の中で共同生活することにより、基本的な生活習慣を確立し、自主性や協調性を獲得し、職員等からの温かい眼差しと思いやりに触れて、他人との間で基本的信頼関係を再構築できることと自己肯定感を高めることであろうと思います。この目標達成のために、子どもたちへの個別の支援計画、生活共同体としての年間行事計画、心理治療施設として組織の運営、あらゆることに取り組んできました。

この五年で得たものは多く、大きいものです。蓄積してきて誇れることも多いでしょう。我々も自信をもって、これまでに築き上げたことを礎にさらに研鑽を積み、子どもたちの最善の利益を追求していこうではありませんか。職員の皆さんには、各自、次の五年を見据えた具体的行動目標を立てていただきたいです。これからひとつの区切りとして五か年計画を設けるのです。新しい年度が始まる今、これまでの五年にさらに積み上げるべき新しい取り組みに優先順位を決めて、速やかに行動を開始しましょう。



と き
時代の流れの中で想いごと

愛育学園はばたき施設長 山本 浩一

平

成二十七年四月に開設した「愛育学園はばたき」は、皆様方のご理解とご支援をいただきながら六年目の春を迎えています。はばたきの子どもたちを支えてくださった皆様には感謝の気持ちで一杯です。

これまでの五年間に、およそ六十名の児童が入園し、四十名を超える子どもたちが退園していきました。毎年この季節を迎えますと、児童一人ひとりの笑顔と笑い声が数々のエピソードとともに思い出されます。

退園していった子どもたちの『その後』は様々ですが、アフターケア等を通じて当施設との関わりを継続している児童も多数います。復帰した家庭や

学校でうまくいかず、悩みや不安を電話や来所で相談してくる児童もいれば、家庭や養護施設などで頑張っている自分を見て欲しくて、褒めてもらいたくて来園する児童もいます。

はばたきで過ごした日々が子どもたちの人生にどのような影響を与え、我々施設職員はどのような役割を果たしているのか…。アフターケアに取り組み中で、これまでの施設のあり方を振り返り、子どもたちから今何が求められているのか、我々はこれから何を成すべきなのか、そのようなことに想いを巡らせながら子どもたちの成長を見守っています。

五里霧中、暗中模索、試行錯誤の五年間ではありましたが、その中で当学園が培ってきた

施設文化である「**はばたき職員**の**三つの心がけ**」についてご紹介したいと思います。

1 目配り

● 目を逸らさずに常に全体を見渡そう

2 気配り

● 子どもや同僚(仲間)が悩んでいたら、まず一声かけてみよう

孤立こそ最大の敵!!

3 そして笑顔

● 他人を思いやる気持ちが「和」を生む

● そして大人の笑顔が子どもたちを和ませる

子どもたちはいつも大人の姿を見ている!!

子どもたちが「大人っていいな!」と感じられる『人としての見本となるような職員集団』として、将来に向かって益々成熟した施設文化の形成を目指して参ります。より一層のご支援ご指導をお願いいたします。





新人職員紹介

「子どもの関わりが大切だったこと」

緒方 康文

見

児童心理療施設の心理療法士として働くうえで、私が大切にしていることは「子どもの良い面をみる」ことです。

私はこれまでにスクールカウンセラーや不登校児へのアウトリーチ等を経験し、様々な子どもと関わってきました。そこでの私は、子どもの課題や苦手な面に着眼しがちでした。五里霧中の子どもが二歩前進できるように「苦手を補う」支援を行っても、結果としては、その子どもの状況を変えることは難しい事例がほとんどでした。しかし、子どもの苦手な面だけではなく良い面も把握し、「長所を伸ばす」支援を行うことで、その子どもが達成感や充実感を感じながら成長し、自らの状況を変えようと前に進んでいく姿をみることができました。これは、ひとつの成功事例であり、私が「子どもの良い面をみる」ことを大切にしたいと思えたきっかけです。

児童心理療施設の子どもたちは、複雑な家庭環境や生育歴を抱えて入所するため、まっすぐな子どもたちが安心できる環境づくりに努めたいです。そして、彼らがこれまでに経験したことのない体験や、苦手な分野にチャレンジできるように関わりを提供することで彼らの長所を伸ばし、得意なことや苦手を補ってあげることができると職員になりたいと思えます。

そう思う私自身も、まだまだ知識や経験が浅いです。私も子どもとの関わりの中で考え、気付かされ、ともに成長し、よりよい関わりや支援ができるように日々精進していきたいと思えます。

「はばたきで感じたこと」

上遠野 優歌

は

はばたきで勤め始めた当初は、特に「子どもとの関わり方」に悩み、どのように接すればよいのか考えさせられる毎日でした。真正面からぶつかるとすればするほど、私自身がきつくなる時もありました。そんなときには、周りの職員の方々に助けて頂いていたと強く感じています。

私が子どもだった頃を振り返ると、はばたきの子どもたちが職員という言葉や対応に反発するうちに、大人の言葉が理解できないことも多くありました。大人になってようやく理解できた、という経験は誰にでもあり、ものの見方や考え方は大人と子どもで異なるように思います。そうだとわかっていても、いざ現場で伝えたいことが子どもたちに上手く伝わらないときには、もどかしさを痛感しますし、どうすれば伝わるのか、どのような関わり方でどんな言葉掛けがよいのか悩み、空回りすることも多くあります。そのようになるときこそ、まずは、私が子どもに嫌だった大人の対応をしてみたいか自身に問いかけてながら、答えが出ないときは子どもたちの反応からヒントを得ながら、「子どもとの関わり方」について考え、子どもにとっての、そのときのベストの関わり方ができるように努めたいと思います。

まだまだ悩むことも多くありますが、周りの職員の方々の力を貸してもらいながら、一人で抱え込まずに、これからも精進していきたいと思えます。

「子どもとの関わりの中で感じたこと」

繁 真知子

入

職当初は、子どもから暴言を言われ、これまで経験してきた職場環境との違いに戸惑い、唖然としました。「どうして」「なぜ」といった疑問が頭を駆け巡り、混乱していました。しかし、周囲の職員に相談をしながら、その後も子どもたちと関わるにつれ、彼らは今まで言われてきた言葉を、そのままこちらにぶつけているのかもしれないと考えるようになりました。

子どもが暴言を言う背景を考えると、虐待を受けた子どもはその解消方法が分からず、自分が受けた心の傷や行き場のない思いを、言葉や行動にして表しているのではないかと思えました。また、愛着障害が根本にあり、防衛本能が備わっていないということも見えてきました。どれだけ支援者側が働きかけをしても、受取側である子どもの気持ちや少しでも汲み取っていかねければ、関係性は築かれていかないのではないかと感じました。

また、一人ひとりが持つ課題に応じて、支援者として考察していく必要があると感じます。日々の生活において、子どもからの小さなサインを見逃さず、子どもの気持ちに寄り添えるように周囲の職員と連携や協力をしたいと思えます。言葉かけをはじめとした支援スキルの向上に努め、支援者として、「いま目の前」にいる子どもにとって何が最善の策であるかを常に考えたいと思っています。



食を通して伝えたいこと

栄養士 長野 亜希子

は

ばたきが開所して五年の月日が経過しようとしています。食を通して子どもたちに伝えられることは何だろうと、日々自問自答しながらの五年間でした。さまざまな背景をもって入所してきた子ども達に安心安全な食事を提供することは当たり前ですが、その食事にどのようなメッセージを含ませることができるのでしょうか。



今までも調理実習や「はばたきクッキング」などに取り組んできましたが、今年度はたくさんの子供の食体験を子どもたちにして欲しいとの願いを込めて、生活担当職員との協力を得ながらユニット調理の回数を増やしました。ホットプレートを用いて焼きそばや焼肉風炒め、チーズタッカルビなどを何回も作りました。回数を重ねるにつれて、子どもたちは調理技術を身に付けていき、職員よりも手際が良くなる程でした。

また、夏休みには各ユニットで調理したカレーや焼きそば、からあげ、デザート類を持ち寄り児童職員全員で「はばたきバイキング」をしました。何度もお代わりできる体験に子どもたちは目を輝かせていました。

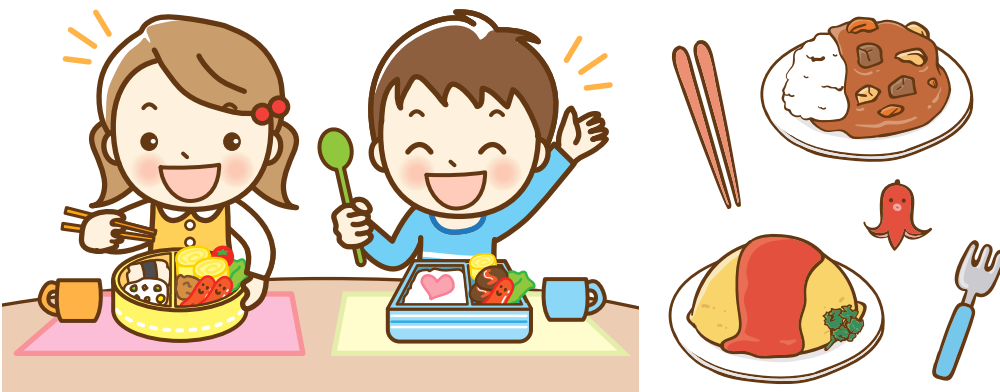


毎日の食事時には、調理した人の気持ちが伝わるようにユニットへ出向き、料理の説明や味の感想を聞きつつ、子どもたちとの交流を楽しみます。その中で、子どもたちからたくさんヒントをもらい次の食育活動に繋がっています。

「食支援」というほどの大きな表現は似合いませんが、子どもたちの気持ちに寄り添ったはばたきの食文化や思いが少しでも子どもたちに届いて欲しいと思いつつ日々仕事に取り組んでいます。

食事を前にした子どもたちの笑顔には格別の輝きがあり、

その笑顔を引き出すためには、ばたきでは愛情をいっぱい込めた食事を作り、「あなたたちは大切な存在だよ」というメッセージをこれからも添えていきたいと思っています。





食に関する年間行事



ユニット調理



はばたきでは、児童がユニットで調理して食事を摂る、『ユニット調理』の活動があります。退所後に児童が家庭で食事を作ることができるように、という思いから始まった活動です。ユニット調理のメニューの中でも人気なのは、チーズタッカルビです。チーズがとろける瞬間には、「わあ〜っ!」という歓声が上がります。子どもらしい姿に微笑みささを感じるとともに、回を重ねるごとに、手際よく調理をできるようになっていく様子に、頼もしさを感じるようにもなりました。これからも美味しい料理を作ってほしいと思います。

バーベキュー



普段の食事と違った食体験ができるように、はばたきでは様々な食に関する行事を企画・実行しています。バーベキュー行事では、バーベキューの体験が初めての児童もおり、行事を通して新しい食体験を提供することができたと思います。バーベキューで大きな盛り上がりを見せたのは、焼きマシュマロです。炭火で焼いて、とろとろになったマシュマロをみんなで食べました。あっという間に、全てのマシュマロがなくなるほど人気でした。

ラグビーワールドカップ記念メニュー



ラグビーワールドカップを記念して、はばたきでは、出場国にちなんだ食事メニューが提供されました。フィジーの代表的な料理であるココナッツカレーは、辛さ控え目で、子どもが食べやすいようにアレンジがされています。エスニック料理を食べ慣れていない子どもたちは、今まで味わったことのない料理に驚いており、貴重な食体験ができました。フィジー国旗が料理とともに準備されており、児童が外国の食文化に興味を持つきっかけにもなりました。

バレンタイン調理実習



季節を感じながら調理体験ができるように、女子ユニットではバレンタイン調理実習を行いました。具材の上にチョコレートを均等に塗り広げていき、トッピングをたくさん盛り付ける子、それぞれに個性が光ります。冷蔵庫でチョコを冷やすこと30分、可愛いチョコレートが出来上がりました。「おいしいね」「またやりたいな」とみんなで会話をしながら喫食して、楽しいバレンタインの思い出を作ることができました。



夏休みの取り組み

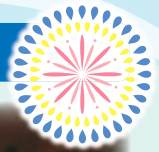


夏祭り



今年の夏休みには、全児童と職員で「はばたき夏祭り」を開催しました。中学生が中心となって、心理職員と協力しながら、ダーツや輪投げ、射的に魚釣りなど様々なゲームを準備してくれました。参加した小学生は、中学生の説明を聞きながら楽しそうにゲームに参加することができました。また、ゲームの後は図書室でわたあめ作りも行い、園内で夏祭りらしさを感じるひとときとなりました。

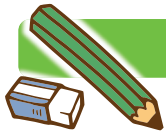
花火



夏休みのある夜に、棟の外で手持ち花火を行いました。「手持ち花火するのは初めて!」という子どもは、恐る恐る花火に火をつけるといった様子でした。しかし、いざ花火が光ると目を輝かせ、「綺麗だ〜!」と喜ぶ姿が見られ、たいへん微笑ましかったです。子どもたちは事前説明をしっかりと聞き、みんなで協力して準備も行い、ケガなく楽しい時間を過ごすことができました。



学習会



2019年春から、はばたきでは中学生を対象として「学習会」の取組みを開始し、定期的実施しています。児童心理治療施設に入所する学力不足の彼らに補足の学習機会を提供し、基礎学力の定着を図るためです。塾の形態に近く、教職資格を持つ職員等3名が分担し、それぞれが一時間の授業を行います。夏休みには半分を超える日数の学習会を実施し、中学生もそのほとんどに出席して熱心に取組んでいました。

学習会の取組みを活かし、学校の定期テストに向けて、学習担当職員主導で試験対策を行いました。日頃の自習では手の届きにくい部分の勉強が各自できたようで、成績の上った子どももいました。それが自信となって、今後施設を退所してからも、前向きに学習に励むことができると願っています。

書きかた



はばたき子どもたちの中には、字を書くことが苦手な子どもが多くいます。そこで今年の夏休みには、小学生の習字力向上を目指し、書き方講座を開きました。はじめは見本通りに書くことが難しかった子どもたちも、回数を重ねるごとに上達していく姿が見られました。書き方講座は夏休みだけの開催でしたが、その後も、綺麗な字を書くことを意識できる子どもや、「字を書く練習をしたい!」という子どもも増え、有意義な取組みとなりました。



生活職員として大切にしていること

生活指導 工藤 裕介

私が生活職員として、子どもたちと食を共にする中で大事にしていることは子どもたちにとって安心できる大人像であることです。子どもたちが目標に向かって、最大限力を発揮する為には、環境を整えてあげることが大切だと考えています。さまざまな環境で育ってきた子どもたちだからです。まずは安心できる環境を設定してあげること、大人に

対して安心感を持ってもらうことを心がけています。日常生活を共にする中で、楽しいことや大変なことを共に経験し、その上で可能な限り、子どもたちのできている部分に目を向けることで、自分自身の個性や特徴を知り、苦手なことや課題となっていることに対して挑戦する力を身に付けるためのサポートをしていきたいと思っております。

生活場面でのポイント

生活指導 望月 らいり

学習を嫌がり、長期休暇の度に宿題をやり上げられず、苦労する女の子がいました。令和元年の五月は十連休と、ちょっとした長期休暇でした。もちろん、宿題も十日分出されていました。彼女とは、冬休み、春休みと宿題の件でバトルを続けていた私は、もうお手上げ状態だったため、彼女にある目標を課しました。それは、「ゴールデンウィークを思いやり楽しむこと」でした。快諾し

た彼女は、宿題の計画表を提出し意欲的に取り組むことができ、結果、宿題をやり上げ、連休も楽しむことができました。「生まれ初めて計画通りに宿題が終わった」と語る彼女の表情は本当に嬉しそうで、成功体験を得たように見えました。それからの彼女は、学習において自分で計画を立て、自主的に学習を進めることができるようになりました。

心理士としての役割

心理療法担当職員 荒金 雄紀

気がつけば、児童福祉の分野に携わり七年という月日が過ぎました。私は、生活の指導員として子どもに寄り添ってききましたが、四年程前に心理士としての役割が変わりました。はばたきにおける心理がどのような役割を担うのか、作り上げていく必要がありました。そんな中、新しいメンバーも加わり、心理士も生活場面

今後求められる実践の一つとして、集団療法があります。子どもたちは退所がゴールではなく、地域社会の中で自立した生活を送ることが必要でしょう。集団療法では、集団力学の視点から、人と繋がることで得られる共有体験、支え合うことの必要性、「コミュニケーション能力の向上など多くの学びが得られるでしょう。子どもたちの成長や変化へと少しでも繋げられるよう、これからも実践を積み重ねていきたいと思います。

はばたきスタッフの声

子どもたちから学んだこと

心理療法担当職員 川上 真央

はばたきで心理士として働き始めて、今年で四年目になります。はばたきでの心理士の業務は、個別の心理療法等に特化した仕事だけでなく、生活場面でケアワーカーの先生方と一緒に子どもと関わることも大切な仕事です。

小学生のRちゃんは、自分の気持ちを素直に喋ることが苦手な女の子です。ある日、Rちゃんが二人ですつと寂しかったんだよと話してくれたことがあります。Rちゃんの言葉を聞いたとき、初めてRちゃん

ん気持ちに少しだけ触れられたように感じました。普段子どもたちが何気なく用いる言葉には、いろんな気持ちや考えが込められていると思います。子どもの内面を理解して子どもの支援に繋げることは心理に求められる仕事のひとつであると考えています。子どもの視点に立つ難しさを痛感する毎口ですが、子どもたちと接する時間を大切にしながら、心理士に求められる専門性に自分自身も追いつけるように努めていきたいです。

監理宿直として感じたこと

監理宿直 首藤 優弥

私は現在、地元の大学に通いながら、監理宿直として、はばたきで色々なことを学ばせていただいています。児童と関わらせていただいている中で、楽しいことだけでなく、時に児童間のトラブルに対応するなど大変なこともあります。しかし、私は将来、福祉専門職を目指しているため、監理宿直としてはばたきで働いていることには自分にとって大き

な意味があると感じています。はばたきの先生方から、そして児童から学ぶことが多く、このような環境で関わらせていただけることに本当に感謝です。まだまだ至らない部分は多いですが、これからもはばたきに関わらせていただく中で、将来の自分のために成長できるように努めていきたいと思えます。

はばたきを通じた学習ボランティアにおける学び

学習ボランティア 小野 弘高

はばたきの学習ボランティアを通して、はばたきという施設で児童生徒がどのような生活をしているのかを知ることができました。自分が今後学校現場に出ていく前に関わることができたこと、学ぶことができたことは良かったと感じています。そして、はばたきのような施設には入ることのできなかった同じ境遇の子どもたちと、今後現場で関わっていく可能性があることも知る

ことができました。この時にどのような対応が必要かを考える機会ともなりました。また、一人ひとりの子どもにあった指導法を考える良い機会になりました。個別に教えさせてもらうことを通じて塾のアルバイトとは異なる教え方、雰囲気を感じさせてもらうことができました。この経験を今後現場で生かしていきたいです。



寄付・ボランティアへのご協力 ありがとうございました!!



本年度、寄付金・寄贈品・ボランティア等にご協力下さいました皆様をご紹介致します。 [順不同・敬称略]

音楽等ボランティア

- 生田 純子 ● 田口 千里 ● 甲斐 優希 ● 生田 大明 ● 中村 慎吾 ● 中村 圭志
- 大分ゴスペルクワイア・グレイス ● 日産労連NPOセンター「ゆうらいふ21」

学習ボランティア

- 小野 弘嵩 ● 工藤 桃子 ● 桑原 晶子 ● 高木 佳奈 ● 寺尾 明恵

その他ボランティア

- 吉田 俊恵 ● 須藤 里美 ● 美容室gic 佐古 健二

寄付

- 大分県社会福祉協議会 ● むぎの会(NPO法人) ● 九州納豆組合 ● 大分県農業共済組合
- 大分銀行労働組合 ● 大分1985ロータリークラブ ● NHK歳末助け合い募金 ● 大分市芳河原地区自治会
- (株)まるひで ● 大分ゴスペルクワイア・グレイス ● 読売西部七日会 読売センター
- 今仁 淳一 ● 三ヶ田 美子 ● 河野 啓子 ● 杵築市民(匿名) ● 大分市民(匿名) ● 生田 純子

編集後記 ~今年1年を振り返って~

依然として寒さと乾燥が続き、新型コロナウイルスの脅威に不安の隠せない早春となりました。各地ではマスク不足なども騒がれ、一層の不安が煽られる事態です。

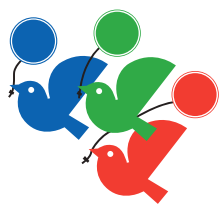
学校現場の全国的な臨時休業が大トピックになりましたが、「はばたき」などの児童福祉施設に入所し集団生活する子どもたちは、人口密度を避けるべく施設から逃げて生活することは当然できません。勤務職員についても同様であり、子どもの安心・安全と生活を守る私たちに「臨時休業」はありません。だからこそ責任や使命が一層求められるといえます。あらためて、そのような大変な現場で子どもたちのために毎日汗を流して下さっている職員の皆様には敬意と感謝の気持ちを抱く次第です。当園職員もさらに努力せねばならないと鼓舞されます。今こそ、私たち大人が子どもたちを温かく守る「マスク」の役目を果たさなければならないでしょう。

さて、今春も無事に『はばたきだより』を発行することができました。作成にあたり執筆依頼を快く受けていただいた理事長先生をはじめとする関係者の皆様、校正作業やレイアウトの打ち合わせから発行まで綿密かつ多大なご協力をいただいた株式会社ひまわり様、郵送や設置など最後まで関わってくださった皆様、そして拙稿な本号をお読みくださっている皆様に最大の感謝を心より申し上げます。

かねてから多くの方に「はばたき」を温かくご支援・サポートしていただいております。一方でまだまだ至らぬことが多い当園ではありますが、今後求められる児童心理治療施設としての役割を果たしていけるよう、職員一同、惜しみなく努めて参る所存です。

これからもよろしく願い致します。

はばたき広報委員 川村 涼太郎



社会福祉法人藤本愛育会

大分こども心理療育センター

愛育学園はばたき

〒870-0948 大分県大分市芳河原台11番29号

TEL (097)578-7755 FAX (097)578-7756

<http://www.oita-kodomo.net/habataki/>